

超極早生ウンシュウ「みえ紀南 1 号」のマルドリ方式栽培により、高品質な果実生産に加えて、収益の向上が期待できる

利用対象：果樹栽培農家

「みえ紀南 1 号」のマルドリ方式栽培は、安定的に高品質果実の生産を可能にする技術として有効であり、収益の向上が期待できます。

表 1 「みえ紀南 1 号」のマルドリ方式による果実品質向上効果

実証園地	調査年	処理区	選果場出荷データ			
			糖度 (Brix)	クエン酸 (%)	品質基準合格 率 (%)	単位 収量 (kg/10a)
A園	2017年	マルドリ	10.5	1.06	60.0	2,005
		露地	10.2	0.93	58.7	1,006
A園	2016年	マルドリ	10.7	1.06	69.2	905
		露地	10.3	1.03	62.8	672
B園	2017年	マルドリ	10.6	0.97	69.1	1,875
		露地	9.8	0.86	46.1	2,111
B園	2016年	マルドリ	10.6	1.05	64.1	1,535
		露地	9.8	1.01	43.7	1,521

注) 選果場出荷データはA、B園の全出荷量から得られた評価データを収集した。調査樹は7年生(2016年)及び8年生(2017年)。

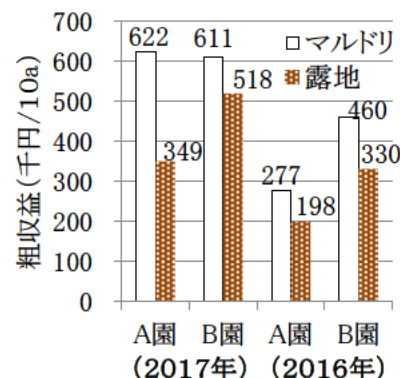


図 1 「みえ紀南 1 号」のマルドリ方式栽培による粗収益向上効果

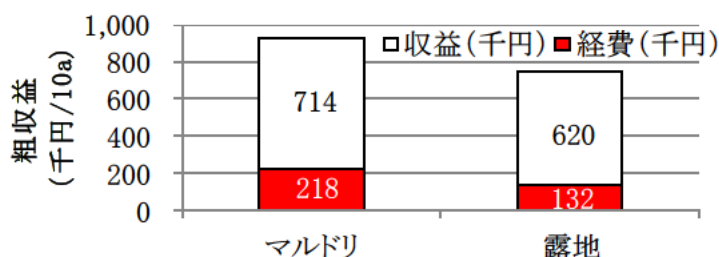


図 2 「みえ紀南 1 号」のマルドリ方式栽培技術導入における収益(試算)

*目標収量を 3t/10a とし、経費は農薬衛生費、肥料費、マルドリ施設費(償却費)で試算。

特 徴

- 「みえ紀南 1 号」のマルドリ方式栽培により、露地栽培よりも高品質な果実が生産できます。
- 10a 当たりの収量は、マルドリ方式栽培であれば露地区と比較しても問題無く安定的に生産でき、品質基準合格率の向上により粗収益を向上させることができます。

適用地域と注意点

- 三重県内のウンシュウミカンが栽培可能な地域で適用できます。
- マルドリ方式栽培の効果は水分制御によるものであり、マルチ被覆を完全にして雨水の流入を抑え、かん水設備を整えて水分制御が可能な状態とする必要があります。
- 7月上旬を標準にマルチシートの敷設をおこない、満開後 8 5～9 5 日頃の果肉色が増す頃に水分ストレスが付与できるよう管理を行い、以降水分ストレスの過不足が無いように水分チェックボール等で樹の水分不足度を把握しながら、少量多頻度かん水等による適度な水分管理を行うことが大切です。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室	湊 英也、須崎徳高	電話 05979-2-0008
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm		